川口町　救援物資物流班

訪問日：平成 16 年 12 月 1 日
訪問班　：物流システム班（大学院学生　田村、五十嵐）
分類別：復旧・復興状況
キーワード別：道路、輸送、避難所

調査結果
（1）震災直後の物資の流れ
○震災直後 10 月 24 日、自衛隊がヘリで物資を供給（米、水、毛布等）。同日夕方、友好都市である狛江市（東京都）から米、水、毛布、仮設トイレが届く。ルート：関越道で六日町－国道 17 号で堀の内－竜光をまわって和南津トンネルを回避－川口町役場（竜光まわりは震災直後は非常にリスクが高かったが無理して来た）。
○国道 17 号が復旧するまでは、外からの物資輸送は基本的に自衛隊のヘリ。17 号復旧後、全国から物資が届く（沖縄から北海道まで）。
○調達方法は、主に県にほしい物を請求すると、県が災害時の協力企業、自治体等に要請して直接物資が川口町に届く。最初のうちは、要請ではなく、必要と思われるものが県を通して一方的にくるケースが多い。自治体や個人から直接くることもある。
○11 月 20 日から基本的にすべて物資は断っている。
○仕分け、避難所への輸送は役場職員とボランティア、自衛隊。忙しいときは取りに来てもらうこともあった。
○震災直後は役所に集めていたが、スペースが足りなくなり、学校体育館や企業（建設業等）のスペースを借りる。長期にわたって借りるわけにはいかないので、現在は、日本財団の関連の施設（室内ゲートボール場）に保存し、管理も財団に任せている。
（2）今後の改善点と県・企業等への要望
○広い地域のため避難所が多くなってしまった。まとめて大規模な避難所のほうがよかった。
○県職員の人は常に張り付いてくれてよく対応してくれたと思うが、担当者がすぐ変わってしまい、説明や現状の把握してもらうのが面倒。一人が専属のほうがよい
○物資の輸送の際 11ｔ車でくることが多かった。役場にくるためには規制等のため 4ｔ車に詰め替える作業をしなければならず、迎えるのが大変。小型車で来てほしい。
（3）自衛隊の仕事
○24 日から川口町に入る。現在も滞在。撤退はまだ未定。
○避難所が規模収縮傾向にあるが、避難所のニーズに応えるため隊員数はさほど変化していない（一ヶ所の避難所に多く人数を裂くようになっている）。
○仕事は物資の輸送、炊き出し、テント、風呂の準備等。

（4）県ボランティア本部・中越センター資材ベース（室内ゲートボール場）
　　日本財団　公益・ボランティア支援グループ自然チーム
○物資は県の物資と財団の管理する物資がある。

〇ピーク時は８割くらい物資があったが、今は６割程度。
〇余った物資は、財団の管理する倉庫に運ばれる。
〇雪が降る間、財団は一時撤退し、鍵を県職員に渡す。
〇財団関連の施設なので、安定するまで倉庫の使用可能。
（５）田麦山地区避難所
〇震災直後は物資が一方的に送られる。しばらくすると、県ボランティア本部にニーズを出して、あれば物資がもらえる。
〇田麦山地区には６つの集落があり、その代表者を集めて配給する。
〇基本的には、すべての住民にいきわたるように配給する。配給する日は、物資が人数分以上そろったら配る。トラブルにならなそうなものは、地区の人数に比例して配給。
〇ドライバーの外に、積み下ろす人をつれてきてほしい。積み下ろしにボランティア等人手がかかってしまう。
〇個人で直接物資を持ち込む人は、ダンボール内容のリストを記入してほしい。

県ボランティア本部資材センター（川口町）

県ボランティア本部資材センター（川口町）

県ボランティア本部センター（川口町）

田麦山小学校避難所（川口町）

田麦山小学校避難所の倉庫（川口町）

田麦山小学校避難所（川口町）